

韓国環境部プレスリリース 2020年2月16日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 205-217 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=vcRlkoxsWDMZtJVOkhr0AMsx.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1320085&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）坡州市（パジューシ）津東面（チンドンミョン）および漣川郡（ヨンチョンゴン）長南面（チャンナムミョン）江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゴン）華川邑（ファチョンウプ）および上西面（サンソミョン）、鉄原郡（チョルウォンゴン）葛末邑（カルマルウプ）で発見された野生いのしし死体 13 個体から ASF ウイルスが検出されたと 2 月 16 日明らかにした。

□国立環境科学院は 2 月 16 日野生いのししから ASF ウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで坡州市（パジューシ）では 57 件、漣川郡（ヨンチョンゴン）は 65 件、華川郡（ファチョンゴン）は 73 件、鉄原郡（チョルウォンゴン）は 22 件の野生いのしし ASF 陽性となり全国的には 217 件になった。

○ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

□国立環境科学院は今回確診なった死体は全て広域フェンスの中で発見され、この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があり、徹底した捜索を通じて感染死体を速かに除去することを明らかにした。

以上